

オレゴン便り

発行: 中野壘紀子

2013年

7月

日本は連日、猛暑が続いていると聞いていますが、皆さん、いかがお過ごしですか。

オレゴン州も、6月27日頃からほぼ毎日、晴れの日が続いています。気温が30度を超えても湿度が低いので、からっとしてほとんど汗をかきません。日差しがかなり強くても、日陰に入ると涼しいのです。日も長くなり、午後10時ようやく真っ暗になるという感じです。右の写真は、7月上旬のある日、午後9時15分に撮影しました。夜9時を過ぎているとは思えないくらい、まだ明るい



ですよね。また、6月中旬の週末、ホストファミリーが私をワシントン州とカナダの国境付近にあるサンファン諸島周辺にシー・カヤックのキャンプの旅に連れていってくれました。その際、夕日を見に行くサンセット・カヤッキングも行いました。左の写真も、午後9時過ぎに撮影したものです。初めてのカヤックでしたが、アザラシやボールドイーグル、太平洋を渡る大きな貨物船、そして何より、忘れられないくらいに美しいサンセットを海の上から見ることができ、素晴らしい体験になりました。ホストファミリーには大感謝です。

ワールド・ビート・フェスティバル

6月29日、30日の土日に、オレゴン州の州都セーラムで、World Beat Festival というイベントが開催されました。毎年、この6月の最後の週末に開催されている恒例のイベントで、様々な人種が共生するアメリカにおいて、その多様性をお互いに理解することを目的としています。会場は、セーラムのダウンタウン近くのリバー

フロントパークです。この広い公園の芝生の上に、アジア太平洋地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域、アフリカ地域とグループ分けされて、それぞれが様々なブースを出展します。また、ステージパフォーマンスを行うメインステージがあり、他にも各地域のエリアにパフォーマンスができるステージがありました。今年のメインテーマは、「日本」だったことから、ポータランド、セーラム、ユージーン地域に住む日本人コミュニテ



孝藤流・右近さん左近さんのパフォーマンス

ィーによる和太鼓や盆踊りなどのステージパフォーマンス以外にも、日本からも3団体がステージパフォーマンスを行いに来ていました。セーラムと姉妹都市である埼玉県川越市から書道パフォーマンスをしに来ていた女性の方もいましたし、富山県のお隣、石川県金沢市からも創作日本舞踊孝藤流の孝藤まりこさん、孝藤右近さん、孝藤左近さんの3名が舞踊や剣舞のパフォーマンスを行いに来ていました。パフォーマンスにはたくさんの観客が押し寄せて大好評のようでした。

私も Japan Cultural Tent 内に富山県 PR ブースを2日間、出展しました。「雪の大谷」の大きなポスターに思

わず足を止めて、パンフレットを手にされる方もおられました。こきりこ節のささらや井波彫刻の獅子頭、高岡鉄器の兜等も展示しました。ささらを手にとって触ってみられる方も多く、たくさんの方の興味を引いていました。また、富山の菓売りの紙風船は大人気で、たくさんあったのですが、2日目の午前中にはすべてなくなってしまったほどです。富山県のパンフレット等の横に、小さな折り紙コーナーも設けました。ちょうど兜が展示してあり、紙風船も配布していたので、新聞紙で兜と折り紙で紙風船を作るコーナーにしました。たくさん子どもたち、さらに、おとなの方々が兜や紙風船を折りに来てくれました。



2日間、セーラムは 35 度まで気温が上がり、テント内は日本を思い起こすほど蒸し暑かったのですが、たくさんの方々にブースを訪れてもらい、富山県を紹介することができて本当によかったです。



ポスターにパンフレット



ささらや兜、獅子頭



パンフレットで県内観光地を紹介



新聞紙で兜作り



パフォーマンスを見に来た大勢の観客



盆踊り

7月4日独立記念日

7月4日は、アメリカ合衆国の祝日「独立記念日(Independence Day)」でした。1776年7月4日、アメリカ独立宣言が公布されたことを記念する祝日です。私はこの日、何人ものアメリカ人の友人たちから、“Happy 4th of July”と書かれたEメールをもらいました。独立記念日には各地で様々なイベントが開かれますが、オレゴン州の州都セーラムの北部にある St. Paul という小さな町では毎年、St. Paul Rodeo というロデオのイベントが開かれています。私も4日の夜、ホストファミリーとともに見に行きましたが、会場は観客でいっぱいでした。ロデオを見たのは今回が初めてでしたが、古きよきアメリカの西部開拓時代のカウボーイ文化を垣間見ることができました。また、独立記念日の夜(その前後も含む)、アメリカでは打ち上げ花火が恒例行事です。ロデオのあと、打ち上げ花火がもちろん行われたのですが、遠くの空にも3~4つほど、異なる街であげられている花火を同時に見ることができました。日本の花火と違い、とにかく次々に間を置かずに打ち上げられ、とてもきれいでした。





ホームパーティー

アメリカの家庭では、よくホームパーティーが開かれます。私もこれまで、ホストファミリーの友人宅にクリスマスのホームパーティーに伺ったり、派遣校の卒業生の卒業祝賀ホームパーティーや日本人留学生のお別れパーティーによべられたり、私自身が元オレゴン州政府職員のアメリカ人の方と企画して日本食ホームパーティーを行ったりと、様々な形で参加してきました。そして、この夏、私のホームステイ先でも毎年恒例のホームパーティーが開かれ、私も準備から手伝いました。料理は基本的にはポット



ラック形式（参加者の持ち寄り形式）なのですが、ホストファミリーのリクエストで、おにぎり、巻き寿司、鮭の味噌ホイル焼きを作りました。どれも好評で、あっという間になくなったので、嬉しかったです。参加人数は、合計 60 人から 80 人ほどはいたでしょうか。7 月 6 日、午後 3 時過ぎから徐々にお客さんの数が増え始め、デッキでバーベキューをしたり、リビングでゲームをしたり、庭でトランポリンやフリスビー、バレーボールをしたり、外の椅子に座って会話をしたりと、それぞれに楽しんでいるのが分かりました。そして、このホームパーティーのメインイベントは、夜 10 時に始まりました。それは何と、「打ち上げ花火」です。ホストファミリーが地元警察や地元消防署さらに州の消防局に許可をもらい、

庭で打ち上げる本格的な花火です。庭と言っても、彼らの所有するワイン用のブドウ園で、30 分間ほど、すぐ目の前で美しく打ち上げられる花火に、日本ではまずあり得ないだろうと思いながら、みんなで酔いしれました。花火のあとは、帰宅する方ももちろんいましたが、各自で持ってきたテントを庭の芝生の上に張り、泊まっていく方も 20 名以上いました。この夜も星が大変きれいで、天の川も見ることができました。時差の関係で「日本は今、ちょうど 7 月 7 日の七夕だなあ」と思いながら、オレゴンの夜の美しい星空を見上げていました。とても素敵なホームパーティーでした。



ブドウ園の見える庭でバレーボール



ブドウ園で打ち上げ花火

JET フログラム新規派遣者派遣前研修

6月下旬、在ポートランド日本国出張駐在官事務所と JETAA Portland (JET プログラム参加者の同窓会組織) 主催で行われた新規派遣者のためのオリエンテーションに、ボランティアとして参加してきました。8月上旬に日本へ渡り、日本各地の小・中・高・特別支援学校で外国語指導助手 (ALT) として勤務することになるアメリカ人を前に、元 ALT の方とティーム・ティーチングのデモンストレーションを行いました。質疑応答では、いろいろな質問を受け、彼らの日本に関する事前知識の深さに驚いたり、何を思い、期待して日本へ行くかということも知ることができたりと、とても貴重な機会となりました。

オレゴン日本語教師会 教師日系企業訪問

7月上旬、オレゴン日本語教師会(ATJO)主催の教師日系企業訪問に参加しました。ポートランド近郊地域の高校や大学で日本語を教えている日本人やアメリカ人の先生方とともに、敷島製パンの子会社であるパスコ・アメリカを訪問し、堀江社長から会社概要等の説明を伺ったあと、工場内を見学させていただきました。また、アメリカでは、日本のように菓子パンは一般的ではない、日本より健康意識が強いため whole wheat (全粒粉) のパンが大変人気である、日本にはアメリカ人が驚くほどたくさんのパン屋さんがある等も知ることができました。最後に、ポートランド日本人商工会とオレゴン日本語教師会がどのように相互に協力すれば、オレゴン州での日本語学習や日本文化促進につなげていけるかという内容に関する意義深い話し合いももつことができました。



オレゴン・カントリー・フェア

7月12日から14日までの金土日の3日間、オレゴン州ユージーン市郊外にあるベニータ市でオレゴン・カントリー・フェアという大型のイベントが開催されました。今年で44回目となる歴史あるイベントです。私のホストファミリーは、もう20年以上前から、ボランティアとして毎年、このフェアに参加しています。

別名「ヒッピーの祭典」としても有名だそうで、参加前に様々な人たちからそれぞれにいろいろな情報を得ていた私は、行く前は多少不安を感じていました。その理由の一つは、フェア自体は週末の3日間の開催ですが、ボランティアの多くは水曜日に現地に行き、フェア最終日の翌日月曜日までキャンプ生活を送るからでした。5泊6日ものテント、寝袋生活はこれまで経験がなく、最長でも3日間でした。さらに、このイベントは全米でも有名だということで、オレゴン州内だけにとどまらず、全米各地から参加者が訪れるそうです。自由を愛するヒッピーの精神に私は適応できるだろうか・・・、それも不安を感じた理由の一つでした。



今年で44周年

フェアは、大きな森一つをそのまま会場にして行われています。会場だけでも端から端まで行くのに15分以上はかかるくらいの広大な広さですが、ボランティアのキャンプサイトは、そのフェア会場を取り囲むようにしてさらに広大に広がっています。実際に6日間、キャンプサイトで過ごしてみて、驚いたことがいくつもありました。まず、この6日間、私はとても良い時間を過ごすことができたということです。行って本当に良かったと

思いました。実際に行ってみないと分からないということは、この世の中、たくさんあると思いますが、まさに



入り口付近・フェアのシンボルの桃

その通りでした。実際に自分の目で見て、経験する、そうしないと本当のことは何も分かりません。人から聞いた話は、その人たちが感じることであったり、その人たちの先入観であったりします。自分も同じことを思うとは限りません。

3日間、計 48,000 人も観客が訪れたそうです。一日平均 16,000 人です。すごい数ですよ。しかしさらに驚くべきことは、このフェアの3日間よりも前後長く滞在するボランティアスタッフの数です。何人だと思いませんか。何と、約 15,000 人だそうです。15,000 人もの人たちが、

フェア会場を取り囲むキャンプサイトで1週間弱、テント生活をしているのです。その数には、ステージパフォーマンスを行うパフォーマーや会場内にある 400 ものブース（食べ物、アート、クラフト、衣料、マッサージ、タロット占い、ヨガ教室など）で働くスタッフの数も入っています。10,000 人を超えるボランティアスタッフの仕事は、警備、建設、ステージ補佐、リサイクル、入場チェック、記念品販売、看板設置、宣伝、託児所、医療、水の補給、清掃、消防、無料送迎バスの管理、仮設トイレの管理、ボランティア用キャンプサイトの管理など、挙げていくと切りがありません。このフェアを運営する団体の正規の職員はたったの7名で、残りはすべてボランティアによって運営されているのです。その数、15,000 人。本当に驚くべき数です。私のホストファミリーは、警備の仕事を担当しており、入場門を見渡せるタワーの上で働いたり、入場者のリストバンドをチェックしたりしていました。



クラフトを売るブース

ボランティアスタッフには専用のリストバンドが与えられ、フェアの開催時間（午前 11 時～午後 7 時）以外の時間も、自由に会場に入出りができます。食べ物を販売するブースも、朝早くからボランティアスタッフのための朝食を販売し、夜遅くには夜食も販売していました。この食べ物ブースも、ベジタリアンやビーガン（極端な菜食主義者）のためのメニューを必ず用意していました。また、クラフトやアート作品を売るブースの中には、1年に1回のこのフェアのために手作りをしている、ということも少なくないようでした。

午後7時には、一般の入場者を会場外に出す **Sweep** という仕事があります。**Sweep**、つまり、「追い払う」ということです。私のホストシスターは、ほうきを持ち、**sweep**（掃き出し）をしていました。私も大きな横断幕を他のボランティアスタッフとともに持ち、会場の一番奥から入場口まで2時間かけて **Sweep** をしました。

会場内には、15 箇所以上のステージがあります。そのステージでは、フォークやロックなどの音楽、ジャグリングやアクロバットなどのショー、コメディショーなど、様々なパフォーマンスが行われていました。私が何より感激したことは、本物のパッチ・アダムスさんの講演を聴くことができたことです。昔、映画を見て感動し、数年前、英語の教科書



Sweep の一団

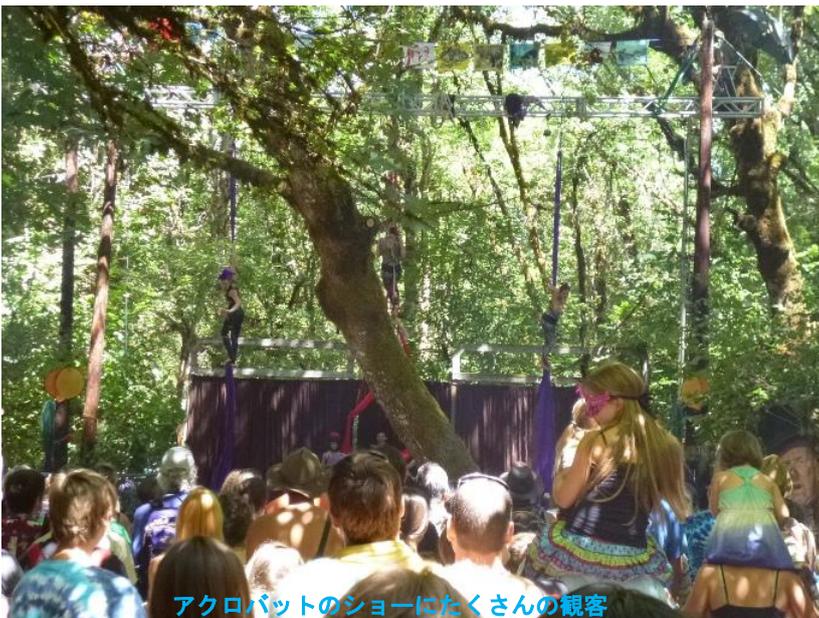
で彼の人生が取り上げられた文章を読んだ時は、生徒にもこの映画を見せました。パッチ・アダムス氏は、毎年このフェアで3日間、講演を行っているそうです。

ショーの一部は、一般の客が帰ったあとも深夜遅くまでボランティアスタッフのために続きます。ほとんどが音楽中心のようでした。(正直、夜中までうるさくて眠れなかった夜もありました・・・) また土曜の夜は、午後9時から深夜1時まで、ボランティアスタッフのために「ミッドナイトショー」が開かれ、3日間のフェア本番中は自分の仕事をしていてステージを見ることができないスタッフのためにパフォーマーたちが少しずつ、ステージに立ちます。このショーは、大変な盛り上がりでした。



パッチ・アダムスさんの講演

平和と自由を愛するヒッピーの文化に由来するこのフェアでは、環境問題や教育、農業などについて語るコミュニティー・ビレッジというエリアもあります。エナジーパークというエリアは、地球に優しいエネルギーの使用について訴えていました。会場内の食べ物ブースでは、すべて金属のフォークやスプーンを提供し、使い終わったら専用の容器に入れ、ボランティアが洗浄してまた使える仕組みになっていました。ゴミの分別も徹底しており、すべてのリサイクルを目指していました。「良い例を示して、まわりに伝え、広めていく」、これも、このフェアが目指す一つのテーマだそうです。



アクロバットのショーにたくさんの観客

会場内は様々なコスチュームに身を包んだ人たちであふれていました。もちろん、ヒッピーの象徴とも言われる「タイダイ(tie-dye) [絞り染め]」の服を着ている人も多かったです。突然、賑やかなパレードがやって来て異常に混み合うこともありました。日本の竹馬のようなものに乗って軽やかに歩く巨大人間や、顔にフェイスペイントをして背中に天使の羽をつけている小さな子どももたくさんいました。会場内は、優しさと笑顔にあふれていました。確かに、ユニークな(独特な)イベントです。また、ボランティアスタッフの一員となってキャンプサイト

で6日間を過ごし、まずはボランティアとして働いているすべての人が、このフェアを愛し、スタッフ全員を一つの大きな家族だと考えているということが分かりました。親がその子どもと、そして次は孫と代々、このフェアに関わるので、家族はどんどん広がっていきます。「私は今年24歳、25回目のフェアです」と言っているスタッフは珍しくありませんでした。ユニークな中に不思議な魅力が詰まっているのだと思いました。「毎年行っても、いつも違った新しい経験ができる」と言ったホストシスターの言葉が印象的でした。

ホストマザーをリーダーに集まったクルー計20名は、キャンプサイトの定められた位置に、私たちのテントサイトを作り、その中で準備から片付けまで協力して6日間を



パレードがやってきた!

このテントで6日間

過ごしました。みんな、ホストファミリーの親しい友人たちです。私のことをいつも気にかけてくださり、一緒に食事を買いに行ったり、ショーを見に行ったりしました。たくさんの優しさに囲まれ、心配していた5泊のテント生活はあっという間に終わりました。「まず自分で見て、経験してみることが大切だ。価値観を決めるのは自分である」ということを改めて実感したすばらしい機会となりました。この経験を通して、また少したくましくなったように思います。このようなわずか1年8ヶ月のアメリカ滞中で、他の人たちがなかなか経験できない機会を私に与えてくれたホストファミリーとの出会いに本当に感謝しています。



無料で本を持っていける Library



木のツルで作ったドラゴンの中で休憩する子どもたち



私も Sweep に参加しました



この木は動きます！



こんな人も突然登場します！



7月22日から日曜日を除く3週間、派遣先の学校の日本語プログラム・ディレクターの教師が主催する日本語サマーキャンプが、派遣先の学校を会場に開催されます。私もそのキャンプでインストラクターの一人として日本語や日本文化を教えます。次号では、この日本語サマーキャンプの様子についてお伝えしようと思います。



州都セーラムにある州議事堂



ハイウェイから見た7月上旬のマウント・フッド